

第1回 道の駅草津リノベーション構想策定懇話会 議事概要

■日時：

令和3年7月1日（木）14時00分～15時40分

■場所：

市役所 4階 行政委員会室

■出席委員：

牧田委員、小川弥委員、堀委員、田中久委員、小川文委員、山本委員、中西委員、佐々木委員、長束委員、本間委員、田中定委員、石黒委員

■欠席委員：

中嶋委員

■事務局：

環境経済部：寺田部長、太田副部長

農林水産課：舟木課長、柳原課長補佐、井上主任

■傍聴者：

0名

1. 開会

【寺田部長】

本日ここに、第1回 道の駅草津リノベーション構想策定懇話会を開催するにあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、御多用のところ、御出席を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、日ごろは本市農林行政に格別の御理解、御協力を賜り重ねてお礼申し上げます。

さて、道の駅草津につきましては、滋賀県と草津市が一体となって、都市住民との交流を基盤とした新たな農業振興を図るため整備したものであり、平成18年度のピーク時には約33万人の利用者がありましたが、近年では約20万人まで減少しております。

このような状況を鑑み、令和元年度、2年度にわたり、リノベーションの方向性について検討を行ってまいりました。

今年度につきましては、これまでに検討を行ってまいりました方向性を具現化した「道の駅草津リノベーション構想」を策定し、道の駅草津の機能強化や魅力アップを実現することで、さらなる本市の農業振興に繋げて行きたいと考えております。

本日は、道の駅草津の現状や課題および道の駅草津のリノベーションの方向性について意見交換をしていただきたいと考えておりますので、委員の皆様におかれましては、活発な御意見を賜りますようお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

2. 委員等紹介

委員、事務局について、資料を参照いただくことで紹介。<資料 1・配席図>

3. 会長および副会長の選任

会場より事務局一任の声あり。

事務局が牧田委員を会長に、山本委員を副会長に推薦し、一同了承。

4. 議題説明および意見交換

【事務局】

<資料 3 について説明>

【牧田会長】

令和元年度と令和 2 年度に亘って業務を受託した観点から話をさせていただく。

そもそも道の駅とは何かであるが、道の駅は全国に約 1,200 駅あり、基礎自治体の数より多い状況。なかには平成の合併以前に駆け込みで作られたものもあり、1つの市に5つの道の駅がある所もある。道の駅の所轄は国土交通省で、道の駅には3つの機能がある。1つ目は道路利用者のための 24 時間使える駐車場やトイレの休憩機能。2つ目は道路利用者に対する情報発信機能。3つ目は地域連携機能。この休憩機能、情報発信機能、地域連携機能の3つの機能を備えているものが道の駅と呼ばれることになる。

道の駅の制度は 20 年ぐらい前に発足し、いろいろな先進事例が出てきているが、道の駅に直売所がなければならないという基準はない。実はトイレと駐車場だけの道の駅もあるが、道の駅と言うと直売所があるらしいと言われている。

さらに地方創生の動きもあるため、毎年 20 カ所程度が増え続けている一方で、経営状況が悪い所もあるため、これらのことを周知した上で議論に参加していただきたいと思う。

次に数字のことであるが、大体 1 施設あたり、年間売上額の全国平均額が約 2 億円。数千万円の道の駅もあれば、10 億円近い道の駅もあり、10 億円近いとイオンモールとも勝負でき、土日祝日となると、観光バスが訪れるような施設もある。

自治体が道の駅を設置すると当然のことながら税金が投入される。このような観点からの問いかけになるが、1つ目として道の駅草津は、草津市の皆様にとってどういう価値があるのかを問いたい。受託業務においてこの調査は行わなかったが、この質問を市民に投げかけたら、おそらく悲惨な結果が出たと思う。

2つ目として、道の駅草津は農業振興の位置づけがある。道路利用者の施設でありながら、市においては農林水産課が主管となっており、農業振興の拠点となっている。2つ目の問としては、農業は市民にとってどのような存在なのか、その中で道の駅草津はそのような仕掛けになっているのか。

3つ目として、日々の生活において、普段は車で 10 分以内のスーパー等へ行き、土日になると大き目のスーパー等に行くと思う。このような観点から、道の駅草津は特徴がないがどういう存在なのか。市民感覚からすると欲しい用途は何になるのか。毎週とは言わないが、季節ごとに家族で

ライフスタイルの一部として道の駅があるとすれば、どのような用途が考えられるか。資料のデータを基礎にしながら妄想し、いろんな意見を出していただきたいと思う。

令和2年度も調査を実施している。令和元年度は、道の駅に来ている方にアンケートを行い、令和2年度は道の駅に来たことのない方を連れて行って覆面調査を行った。令和元年度と令和2年度では全く違った結果となり、「普段買っている野菜を買うためにここに来る必要はない」と、厳しい意見があった。この結果を踏まえると、今来ている方だけを向いた道の駅で良いのか。

またよく来る人は商品を狙い撃ちして来るため滞在時間が短く、この状況を奪回した方が良いと思う。

さらに道の駅に普段来ない人や若い家族連れが来た時に、ソフトクリームだけで良いのか。お腹がすいたときに手が届くものはあるのか。

これまでの2年間で調査を行っているが、道の駅が農業従事者の方や地域でまちづくり活動している方々にとっても、もっと活用できるものはないか。地域にとって欠くことのできない存在、方向性になることを期待している。

A3サイズの資料は今回意見交換をいただきたいリノベーションの方向性がまとまったものになっているので、これを参考に意見をいただきたいと思う。

また、当懇話会は委員同士の活発な意見交換をとおして、より良い構想の策定に繋げることを目的としているので、できる限り懇話会委員の皆様の中で意見交換をしていただきたいと思う。不明な点等があれば、事務局から説明をお願いします。

【山本副会長】

設立当初から米や野菜を出荷している。

課題は早くから分かっている、ここに書かれている事も数年前から分かっていたが、どうしようもなかった。例えばロックベイガーデンのいちごは、収穫時期が3～4月で、5月になったら終わるので、そこから先は収入がなく、遊んでいる施設となり人件費だけがかかる。ロックベイガーデンと合算すると、からすま農産の収益性が悪くなり今現在は赤字で悪循環に陥っている。この課題をどこかで解決し、V字回復とまで行かなくとも、ある程度の回復方向に持っていかないと、多分（有）からすま農産は潰れると思う。設立当初からの問題として、土地が取得できないために全体構想を縮小せざるを得なかった。資料4頁の図面でいうと、道の駅草津の南に位置する土地も当初は取得する予定だったが、それが出来なかったのが、事業自体が縮小になっている。駐車場が少ないとか、建屋が小さいなど、そもそも当初から生じていた問題である。

今回リノベーションするのであれば、車の動線を変えられるのであれば、湖岸道路から直接出入りが出来れば一番良い。出来ないなら出来ないなりに、動線を考えて欲しい。今現在の駐車場東側を拡幅して、現在の40数台を80～90台にして、他の道の駅と同じぐらいのスペースにしたら、まだお客様は入ると思う。

他の道の駅と比べて悪い所は、施設が小さいとか、駐車場が狭いぐらいしか見つからないので、それが原因かと思う。整備を行うには予算があると思うが、駐車場や車の動線を考えて欲しいと思う。

レストランであるが、滋賀県に住んでいて近江牛が全然食べられない。スーパーに行っても全く売っておらず、肉屋に行っても買えない。近江牛御膳というメニューがあるが、ネームバリューとなる物をもっと推していくようなメニュー作りが必要だと思う。ホンモロコもあるが、いろんな地産地消のメニューをもっともっと考えて欲しいと思う。

余談になるが、私は昔、バス釣りをしていた。昔はいくらでも釣れ、刺身やフライにして食べていたが、とても美味しい。例えば、タルタルフィッシュ、タルタルバスバーガーなど、バスを使った新しい商品を開発しても良いと思う。

遊んでいる倉庫があるが、琵琶湖の水に関わるような金魚すくいとかウナギ釣りなど、遊び心や遊べるような所が全くないので、何らかの形でお金を落としてもらえそうな物を考えたらどうかと思う。

バーベキューに関して、以前は材料をショップで購入してもらって、空地の駐車場でやっていたが、数字は取れなかったようだ。芝生広場は広いが利用客も少ないし、もったいない。ゴミは持ち帰ってもらった上で、バーベキューを有料にできないか。

コロナ禍で数字がダウンしている時に、リノベーションを完成させて、コロナ明けに数字を上げることがあっても良いと思う。

【長束委員】

道の駅利用者の減少が気になっており、ピーク時点は33万人、現状では20万人である。リノベーションは大いに結構であるが、リノベーションした時にお客様は入るが、2～3年すると減少する傾向になると思うので、5～10年先を見据えたビジョンが必要ではないかと思う。直近では「鮎家の郷」が閉店した。確か年内に福岡県の食品メーカーの「かねふく」が、たらこのテーマパークをオープンさせる。

民間ではお客様が入らなければ、当然閉館になるので、商品開発を含めて、十分考えるべきではないかと思う。

道の駅の近くに県立琵琶湖博物館や水生植物公園みずの森があり、集客の意味では大きなメリットがあると思う。令和元年度の琵琶湖博物館の来館者数は51万人、水生植物公園みずの森は7.7万人で、琵琶湖博物館には観光バスが来ており、道の駅までは歩いてもしれているが、お客様はこちらに来ずに琵琶湖博物館だけを見て帰っていく。琵琶湖博物館やみずの森に来る人を、道の駅に引き込むような取組みが必要ではないのかと思う。

今回の目的でもある道の駅の周辺関係では、市土地開発公社の9haの活用についてまだ先が見えていない。琵琶湖博物館、みずの森、下物ビオトープを含め、烏丸半島全体を見渡して、観光など総合的に考えた上でリノベーションするべきだと思う。道の駅だけをリノベーションするのではなく、周辺まで含めて取り組むべきで、点から線を考慮して進めてもらいたいと思う。

また、広報やPR活動がとても大事になってくると思う。若い人はスマホを使ったSNS等で情報を発信しているので、市民へPRする手段を行って欲しい。

また、常盤には歴史的文化財が結構ある。自転車が良いかどうかかわからないが、歴史と観光を上手くリンクできれば良いと思う。

駐車場が狭いと言う意見があったが、大型のバスが駐車できる琵琶湖博物館の駐車場を利用できるルートを考えていけば、集客も出来るのではないかと思う。

【牧田会長】

今回、道の駅草津リノベーション構想策定懇話会となっているが、このリノベーションという言葉が誤解を招くと思っていた。リノベーションはあくまでも建物そのものの事である。市が出来る事は、建物を綺麗にする、古くなった施設を改修する、あるいは県に要請して駐車場を広くすることしか出来ない。先ほどの意見の地産地消をやってくれと言われていたが、誰がやるのかとなった

時に、その問題は今の事業主体である（有）からすま農産プラス市民の方が、市民活動の一環として特産品開発するのだろうと、個人的には思っている。先ほど、妄想して欲しいと話したのはその事である。リノベーションはあくまでも、皆さんからの意見をいただいて工事すれば、数か月でやれてしまうかもしれない話である。ただ、リノベーション以外の部分は、この策定懇話会で話し合っ
て欲しいことである。

商工会議所の佐々木委員、女性の観点からでも商工団体からの観点からでもいいので、感じていることや連携の可能性などがあれば意見をいただきたいと思う。

【佐々木委員】

委員に拝命されてから改めて道の駅に行き、誰がターゲットなのかを見てきた。確かに野菜がたくさんあったので、地元の方が買いに来られる場所として利用されていることが分かった。

お土産を見ると、ここで売ってなくても良いような、他府県のカレーがあった。ここには、地元の方に野菜を買いに来て欲しいのに、一貫性のある商品は無かったように感じた。

また、サイクリストの方が来るので、休憩するのであれば道の駅草津特産のドリンクを販売するとか、道の駅草津で休憩したいと思わせるような、サイクリスト向けの発信があったら良いと思った。

SNSでの発信は必須で、インスタで発信することで全国的にも広がっていく。

指定管理者が導入されるのであれば、指定管理者からの商品や情報の発信も有効だと思う。高校生に特産品を作って提案してもらうのも良いと思う。

【本間委員】

私は常盤学区に住んでおり、人口減少や高齢化率が高いため、何とかしなければならないということもあり、「常盤活性化プロジェクト」のまとめ役として、取り組んでいる状況である。「常盤活性化プロジェクト」では33項目の常盤の問題点をあげているが、そのなかに、道の駅草津リノベーションの項目もある。リノベーションについては、常盤学区にとどまらず、活性化に繋げていければ良いと思い、プロジェクトに取り組んでいる。

そこで事務局に2点、質問がある。1点目として、農林水産課から事前に聞いている策定の主旨や背景は、利用客が平成15年のピーク時には33万人、現在は23万人ということ。そうであれば、小手先で中途半端なことをやるのではなく、グリーンプラザからすまの増築と2号館の建設を視野に入れるなど、施設の充実についてどのような事を考えているのか市の考えを聞きたい。

2点目としては連携の話であるが、道の駅以外にもロックベイガーデン、JAのあおばな館、野菜流通センター等がある。また、平成30年4月に改築した常盤まちづくりセンターでは、農業を活かしたコミュニティビジネスの拠点整備を進めるべく話し合いを行っている状況である。道の駅とのすみ分けについても整理して、相乗効果が発揮できる施設になれば良いと思い、常盤学区としても取り組んでいる。

このように、小手先だけの中途半端なリノベーションではなく、やるのであれば湖辺の南のイオン、北のからすまというぐらいの物としていただきたい。

【事務局】

先ず背景について、本市の農業振興の拠点として位置づけ施設を設置している。当初想定していた規模より事業的に縮小して出発したことが、今の現状を招いている要素にもなっている。市とし

ては都市部の住民が道の駅の存在を感じられていないことも課題として考えている。今回は、行政としてはお金をかけて施設の増築や改築することはできる事ではあるが、その後の運営等は民間のように行政では出来ない要素がある。箱物を作っても、中の運営を上手にしていく仕組みについてもこの場で意見をいただきたい。長く施設を維持運営し健全にしていこうとすると、運営していく中で時には変化が必要になってくると思う。変化を取り込んだ運営方法や地域の参画、コミュニティビジネス、市民活動の拠点など、いろいろな要素で新たな魅力を発信できればと思う。琵琶湖博物館等の周辺施設への来客者をここに導く事によって安定した収益が生まれ、その財源を基に日々運営の中で変化を付けて魅力を向上させていくような方向としていきたいと考えている。市としては当初の 33 万人に戻したら良いのかと言うことではなく、ここが末永く当初の目的と、市民に愛される施設として発信できるようにしていきたい。今回はリノベーション構想としてその方向性をまとめていきたい。このような視点で意見をいただければと思う。

【本間委員】

みずの森は我々の就労場所としていたが、市からUグループ（西武）に委託している。当初、10万人は絶対に切らさないと決めていたのが、観光バスがどんどん入ってくると思ったら入って来ないし管理は悪い。指定管理で出すのは良いが、出す人も買う人も喜んでもらえるような、地域や道の駅が潤えるようなものになって欲しい。食べ物を売るならなおさら、大きな事ではなく良いものが出来たと思えるような施設にしていきたい。

【小川弥委員】

客目線のソフト面の取組みで気になることについて話す。

道の駅草津は昔から利用していた。以前は、からすまレンコンを買うことを目的としていたが、3～4年前頃からいろんな所で見かけるようになり、道の駅に行かなくても買える状況になり、ほかに買いたい物が思い当たらないので、最近は訪れる機会は減っている。

県内をドライブしていると、米プラザや道の駅など必ず寄る場所があるが、それぞれに魅力がある。資料に方向性としてあげられているオリジナル商品の検討や、地域固有の資源を活かした物が欠けていると思う。あおばなソフトは美味しくいただいているが、ベジカフェで食事するにしても草津の物や地産地消の物はない。野菜がたくさん入っているベジカフェセットがあるが、このレンコンはからすまレンコンかと聞いたら違うと言われた。からすまレンコンという名前がついているぐらいなので、一番推して欲しい物なのに使用されていないのは、凄く残念に感じた。

全ての農産物にからすま農産の大きなシールが貼ってある。農産物はそれぞれの地域の生産者から来ていると思うが、それぞれの生産者の顔が見える販売であると、もう少し手に取りやすく楽しくなると思う。1つ1つのストーリーがないように感じた。

【堀委員】

滋賀と京都で走り回っている自営業者である。資料に挙げられている道の駅では、あいとうマーガレットステーション以外は頻繁に行っている。また、唯一行かないのは道の駅草津であるが、それは通り道ではないからである。

最初、この話をいただいた時に道路の交通量がどれぐらいなのか気になったが、他と遜色のない交通量があるのに寄ってくれないと言うことは、ハード面の駐車場が狭いことが致命的ではないかと思う。やはり空いているから入る訳で、探さなければならぬのでは寄りにくい。優先順位としては駐車場が一番だと思う。ただ、いたずらに拡張しても平日と土日の格差がどれぐらいなのかデ

ータがないので分からないが、その辺りを考えてフレキシブルに出来れば良いと思う。

サイクリストもそうであるが、周遊や観光、地元の人々の通り道にしている方は結構あると思う。スムーズに寄るのであれば、駐車場が大きいことと、トイレが綺麗なことが急務であると思う。

建物については、リノベーションしたが10年後がどうなるのかという話があるとすれば、お金をあまりかけない方が良いと思う。駐車場を拡張してトイレを最小限綺麗にして建物は耐震基準、フレキシブルに置くものを変えられるような、時期や時代によって配置が変えられる施設が一番良いと思って聞いていた。

ソフト面であるが、市民として地元の有名なものは、ここにあると言うことを知りたい。いつも草津メロンを欲しいと思っても、買えた試しがない。他のどこで買えば良いのか分からない。草津のちょっと高級な果物や、からすまレンコンなど、有名なものが置いてあれば、手土産に買って帰ると思う。そのようなものがあることを掲げたステーションであって欲しい。

【田中久委員】

道の駅には良く行っている。土日に用事がなかったら、訪れてコーヒータイムを楽しんでいる状況である。ハード面では、皆さんが話しているとおりで、駐車場が狭いのは休日によく行くために余計に感じる。

ビワイチの方や若い人ではなく、高齢の方が大きいバイクでたくさん来て、適当な所でバイクを止め、トイレ辺りの前でワイワイとしている。これは環境上良くないと感じている。また、サイクリング用自転車と自動二輪車を整然と止められるようなスペースがあると良いと思う。

琵琶湖一斉清掃では、湖周道路の琵琶湖側の清掃を行った。今年は駐車場が長く閉められていたのでゴミは少なかったが、例年だと、バーベキューやテントを張ったりして、京都や大阪方面から来た方々が楽しんでおり多くのゴミ等がある。

10年ぐらい先になるのか分からないが、湖岸堤から琵琶湖側の維持管理も含めて民間に任せることによって、県の持ち出し費用を抑えていこうとの話もあるようで、当然そこでは駐車場利用料金等が取られると思う。このような方向で進んでいくと将来的には、湖西の高木浜にあるようなカヌーやオートキャンプ、その中心にはホテルもあるような感じで観光・遊び・レジャーなどが、だんだんと張り付いて、からすま半島の中心の大きなゾーンに何かが出来て、一大観光ゾーンになるような気がする。このような将来を見据えたソフト的なものを入れると良いと思う。

【小川文委員】

私は、米やフルーツを作っている生産者です。ブラックバスやブルーギルのような魚を用いて、外来種の駆除にも繋がる特産品等が、真新しいオリジナル商品に持っていったら面白いと思う。他府県のカレーを置いてあるスペースがそんなに必要なのかなと、納品するたびに思っていた。そのスペースを上手く活用できないかと思う。琵琶湖博物館の集客数が多いので、道の駅に来たら琵琶湖博物館の割引チケットが手に入る、逆もしかりで相互に活用できるものがあれば面白いと思う。

ロックベジもベジカフェも、いろんな生産者が持ち込んでいるが、「今日は〇〇の農家さんの野菜を使って料理したものを提供している」ような取組みも良いと思う。これを食べたお客様が美味しいと感じれば、そこで試し食いや試し買いが出来れば、購買に繋がっていくと思う。

【中西委員】

私は生産者であり、JAの女性部でいろんな活動をしている。孫を連れて琵琶湖博物館に行くが、その帰りに道の駅に寄ろうとすると、洋式トイレの数が気になる。お年寄りには和式は使いにくい

と思う。高齢者の方がドライブに行こうとなった時は、トイレの使いやすさが一番肝心である。道の駅になぜ寄らないのかについては、ベビーカーが通れない・通りにくい、車イスが通れないのでゆっくり見てもらえないのではないかと。

女性部で草津の野菜を市民にお知らせしているが、草津メロンやおおぼな商品もあるし、愛彩菜も推している。レンコンやアスパラも特産品として出ているが、そのメニューが開発されていない。よく「滋賀県のお土産は何があるのか」と聞かれたときに、これと言うものがなく、「ここに行けば必ず特産品があるよ」として、道の駅とは言えないと思う。女性部でいろんなメニューを考えて、先ほどのブラックバス丼を作ってみた。近江牛丼も作って、紹介したことがあるが、ここに行けばこれが食べられると言うのが、お客様にとっては強みのあるものを作ってみればと思っている。

土日休みの若いお母さんは、いっぱい外に出ていく。その方も、琵琶湖博物館の帰りに必ず道の駅に寄りたいたいと思える何か、子ども連れにも魅力があるようなものを出るよう考えていければと思う。

【田中定委員】

改善しながら進めているが批判をいただく立場でもあるので、この機会にいろんな話を聞かせていただけたら有難いと思う。会長からもいろんなアドバイスをいただいているが、限られた予算でやっているのだから、実行が遅れたり出来なかつたりしている。平成 14 年に道の駅が開業し、国交省がドライバーの休憩を目的としてできた駐車場でありながら、トラックもすぐ満車になってしまい、小型車もわずかしかなら駐車できない。隣のロックベイガーデンにも駐車場があるので、土日の混んだ時にはそちらに案内しているがなかなか上手くいかない。時折、トラック同士が口論している場面もあり、トラブルがよく見られる。過去 10 数年間このような状態になっている。

いちごハウスは、農業振興事業の補助金による設備で、大きな鉄骨で出来た建築物であり、障がい者の車イス利用を考えて通路を広くしてある。極端に言えば、パイプハウスの何十倍も設備費をかけながら、栽培する面積は何分の 1 の現状を抱えている。そこには地元の方にパートとして来てもらっているが、有給休暇を与えなければならぬので人件費がかさんでくる。当初の手数料では経営できず、生産者から手数料をいただいている。

当初より来場者が減っているが、開業当時は道の駅がクローズアップされていたが、おおぼな館や栗東の元気村などスーパーに似た立派な直売所が周辺に出来るたびにお客様が減ってきた。さいわい湖周道路に面して観光施設があることから、土日は他府県からのお客様が入っており、何とか維持できている。地元の常連さんはいるが、通りすがりの観光を兼ねたお客様が多い。このような状況であるが、市からリノベーションを考えていただいたことは、大変有難いと思う。我々も頑張っていきたいと思う。皆さんのいろんな意見を聞いて努力して参りたい。

【石黒委員】

道路を維持管理している部署である。先ほどから駐車場は狭いと話されているが、台数については県が出来る範疇と出来ない範疇がある。もともと、道の駅としてどれぐらいの台数が欲しいのか、必要台数はどれだけかであるが、現在は普通自動車 40 台となっており、現在の交通量からすると、20 数台増やすことは可能である。ただ、もっと必要であれば、市と道路管理者が一緒になって駐車場を整備していく必要がある。会長から右折で進入できるようにと話があった。道路をまたいで右折、出入りすることについては、事故の可能性が増えることが考えられる。委員として思うのは、信号交差点が設置されており、手前に看板と路面標示がされているので、もう少し目立つよう

にして、動線をわかりやすい方にした方が良い。また、交差点の北東角に看板が出ているが、内カーブで見にくいので、もう少し大きく目立つようにするなどの工夫があれば良いと思う。

琵琶湖博物館は子連れが多く訪れている。道の駅の来訪者は10代20代が少ないので、琵琶湖博物館に訪れた若い方を引き入れることも重要だと思う。緑地帯をオートキャンプ利用のため電源を設けている所もあり、YouTube等で好評のコメントが出ているので、このような工夫もあると良いと思う。

【牧田会長】

全ての委員から発言をいただいた。事務局から関連で何かコメントはあるか。

【事務局】

委員の皆さまから駐車場の問題等のハード面、ソフト面では配置をフレキシブルに動かせるように等の意見をいただいた。ハード面については、道路管理者の意見を含めてこれから市で詰めていきたいと考えている。ただ、リノベーションは建物を新しくするだけでは問題は解決できないと考えている。各委員から出たソフト面での意見のように、各地域の農産物であることの情報発信、必要なものが必要な時に買えるようなことが、今後求められる姿であると考えている。このようなことは市だけで出来ることではないし、運営している（有）からすま農産とも協議しながら進めていきたいと思う。新たな視点でのいろんなことを担っていただける組織や個人・団体との協力も視野に入れ、特に地域コミュニティビジネスやまちづくりセンターで活動もされているので、そのような活動の舞台として、対外的な草津の魅力発信等、いろんな所との連携も考えている。ここでの意見を団体の方へ声をかけて、リノベーションが本当にこの施設が草津にあって良かったと思っていけるように頑張っていきたい。

これからも各立場で意見をいただきたい。

【牧田会長】

その他、何かあれば発言をお願いしたい。

【山本副会長】

ハスの花であるが、以前はハスの群生地が咲いていた。これもお客様が減った要因の1つだと思う。ハスの復活は出来ないのか。

【事務局】

平成28年ぐらいにハスが一斉に消えたので、市も2か年かけて調査を行ったものの、今すぐに以前の状態にハスを復活させることは困難であるとの結果を受けた。とは言っても、今まであった壮観なハスの群生地は復活したいと、市でも思うところである。小さな取組みとして、ビオトープでハスが再生できるか実験的な取組みを続けている。これを大きな取組みに繋げていって、大学の知見をいただきながら、復活に向けて少しずつではあるが取組みを進めている。原因は土壌や水質などの複合的な要因により一斉になくなったとの結論であった。

【山本副会長】

先ほど、からすまレンコンと言っていたが、草津のブランド野菜としてレンコンの食べ比べが出来るレストランがあると良いと思う。もともと烏丸半島のハスの群生地のレンコンは花用のレンコンであるため赤い花である。食用は白い花であるが、徳島産のレンコンは、花が赤色で身も食べら

れており、新しい品種の栽培も必要だと思う。

以前はハスの花の群生地を見にくる観光バスもあったので、あるのと無いのでは、来客数もかなり変わってくると思うので、ハスの復活を是非お願いしたい。

【事務局】

みずの森ではハスのレンコンを増やす取組みをしている。それをビオトープに植えてみて琵琶湖に近い環境の中で、自然に群生化する方法に取り組んでいる。人の手を入れて過保護な状態であればある程度育つが、自然の状態ではなかなか難しいようだ。昔の状態に戻ることによって、減った集客数の何パーセントは自然増になる話になるかもしれない。

これに頼らず、新たな道の駅の姿をこのリノベーション構想で求めて、これが出来たらプラスαとなるような視点で取り組んでいきたい。

5. 閉会

【牧田会長】

いろいろ多方面から意見いただき有難うございます。

今後の道の駅の方角性に関して重要なヒントや形が見られたと思う。これを踏まえて、次回8月を予定しているので、その中で議論を良い方向に進められるよう検討していきたいと思う。本日は有難うございました。

以上。